

還

還 -KAN- は、ここにご縁されたみなさまと音と私たちとの
一座建立で成り立ちます。

本日は、人生という限りのある時間の中の数ある選択の中から
この還 KAN- をお選び頂き誠に有難うございます

結実

この企画は、私たちふたりが、25年の歳月を経て再会したときに生まれ、
10年の月日をかけて育んできた類まれなウェルネスエデュテインメントです。
9年前、心地よく穏やかに響くハンガリーの子供たちの歌声をきっかけに、周波数に着目。
芸術をもって、生命が、自然界(宇宙)と繋がったとき、そこに広がる世界を感じてみたい。
そう願った種が実を結び、私たちの A=432Hz Acoustic Modren Piano が誕生しました。
でもそれは、古来からの音楽、芸術の姿であり、芸術家たちが、
本来、試みてきたことであると私たちは考えています。



Program 第1部 解の間 -toki-
第2部 放の間 -hanachi-
第3部 還 -KAN- の間

験と科学の狭間から



其れの瞬間——KUNIKO が即興を奏でているとき。KUNIKO の即興を聴いているときに似ている。
私が滝に打たれている そのとき - 耳を澄ませていくことで カラダは次第に境目を失っていく。
音を頼りに“宇”の中へと静かに向かいゆく…その瞬間、私は 自分に戻り 滝から飛び出す。

私たちは、時間、物事、常識、名称といった誰かが都合よくこしらえた括りの中に、
知らず知らずのうちに囚われているのかもしれない。呼吸も、時間も、お金も、病も——
それらはすべて、誰かが、名づけ、価値づけてきたものなのかもしれない。
そして、知らず知らずのうちに生きていると感じる小さな悦びより 違うものを数えて苦しくなる。

これまで私は、競技の世界で、幾度となく人智を超える場面に遭遇してきました。
今も 予防医学の現場においても、修験という祈りの場においても、同じように遭遇する。
人の知識や理屈だけでは捉えきれない“其れ”に出会うのです。
科学という信仰に揺さぶられながらも、否定することのできない 現れ。

私は、このジレンマとこれからも戦い続けていくのかと考えながらも
”其れ”を体験することこそ、現代人に必要なのではないだろうかと思ひこの企画を始動します。

つまり この還 -KAN- とは

思考の枠の外側へ溶ゆき 時空と次元を超える音の旅であります。

それでは、開演まで今しばらくお待ちください。

主催：常世音企画 文責：松澤希順